

創立80周年記念事業

マスコットキャラクター“KIICHI くん”誕生



2026年11月15日 愛知大学は創立80年の節目を迎えます。前身の東亜同文書院から数えれば125年の歴史を持つこととなります。建学の精神には「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」が定められており、今日まで歩み続けてこられたのは、この精神を承継してきた教職員・学生・同窓生たちの熱意と深い配慮、また経済界や地元企業等のあらゆるご支援によるものが大きかったと言えます。

愛知大学は開学の前提となる資金を持ち合わせず、開学しました。文字通り「無」からの出発でした。

創立期は財政危機、“火の車”であり、絶望的な状態に陥っていました。豊橋市からの助成金、一部借入金、授業料や入学金の値上げを行ったり、父母からの寄付金を集めたり、経済界からの寄付金を集めるなど、教職員自身も寄付金集めに走り回る日々が続いていました。

創立第三年度になっても、財政危機を脱しきれず、ついには生産活動にまで乗り出す事態となりました。学生に経営を実習させるという名目と、当時あった農学部・水産学部設置構想の準備として「農工研究所」を設立しました。豊橋キャンパス内の旧兵舎を利用したオブラート工場や製油工場、澱粉工場を設立、キャンパス外にも澱粉工場を設立し、キャンパス外の工場に関しては相当の実績をあげ、愛知大学の財政に一定の寄与をしたといわれています。甘藷(さつまいも)の大産地・渥美半島をひかえ、立地条件に恵まれていたことや本間喜一先生をはじめとした創設者たちが“なんじゃもんじゃ”と考えて対策を講じたおかげでありました。また、本間先生は財務に特化した判断力・分析能力も長けており、幾多の困難を救ってきたことは、未だ以って語り継がれております。

ちなみに豊橋キャンパス内にある菩提樹“なんじゃもんじゃ”は、本間先生が植樹されました。それはまさしく「教職員や学生が立ちはだかる難しい問題をなんじゃもんじゃと考えてほしいな」という思いから、明治神宮の宮司さんから盆栽仕立てで“なんじゃもんじゃ”の苗木を分けていただいたものであり、今では大木となって、毎年5月になると白い花が咲き誇り、まるで研究や勉学に勤しむ教職員や学生たちを優しく微笑んで見守ってくれているような感じが伝わってきます。

愛知大学は「自由」というイメージが強い大学です。そのため、個性豊かな教職員が多く、学生もののびのびとキャンパスライフを楽しんでいます。「和」と「愛知」とによって築きあげてから80年。記念事業のコンセプトは“知のフィルハーモニー”に決まりました。

本間先生の記録写真の資料を確認すると、そのほとんどがスーツに中折れハットを着用している姿が多く残っています。とても紳士的な創設者であったことが伺えます。コンセプトと紳士的な本間先生の姿を重ね合わせてみれば、まるでオーケストラの指揮者のように映えてきました。現代にも通じる本間イズムを奏でながら、愛知大学の永続に向けた新たな決意を込めて、「KIICHI くん」は誕生しました。

次世代への承継をテーマに、教職員や学生から愛される大学公式のキャラクターとして、これからも建学の精神を胸に、愛知大学のブランド力向上のために一翼を担ってくれることを願っています。